

令和5年度三重県沿岸種資源評価（新規）

イシダイ

1. 生態的特徴

イシダイ *Oplegnathus fasciatus* はスズキ目スズキ亜目イシダイ科に分類される魚種で、北海道以南の日本各地、朝鮮半島南部、台湾に分布し、水深 100m 以浅の岩礁域に生息する（波戸岡・柳下 2013）。養殖イシダイのオスは生後満 1 年、メスは満 2 年で一部成熟する。産卵期は 5～7 月で、分離浮性卵を産卵する（熊井 1984）。幼魚は流れ藻や流木などに付いて外洋を漂流して漂流物に付く小動物を捕食して成長する（岡本・尼岡 1997）。全長 10 cm 以上で雑食性が強くなり、フジツボ、甲殻類、貝類のほか海藻も捕食する（熊井 1984）。

三重県におけるイシダイは定置網、刺網、一本釣で漁獲され、大型定置網が 50% 以上を占める。漁獲の最盛期は 2～5 月である。

2. 資源評価の指標となったデータ

資源水準は三重県ブリ定置漁獲統計の漁獲量を指標とした。

資源動向は県内でイシダイの漁獲量が多い南伊勢町方座浦地区の大型定置網による CPUE を指標とした。

3. 資源評価結果

資源水準：低位

資源動向：横ばい

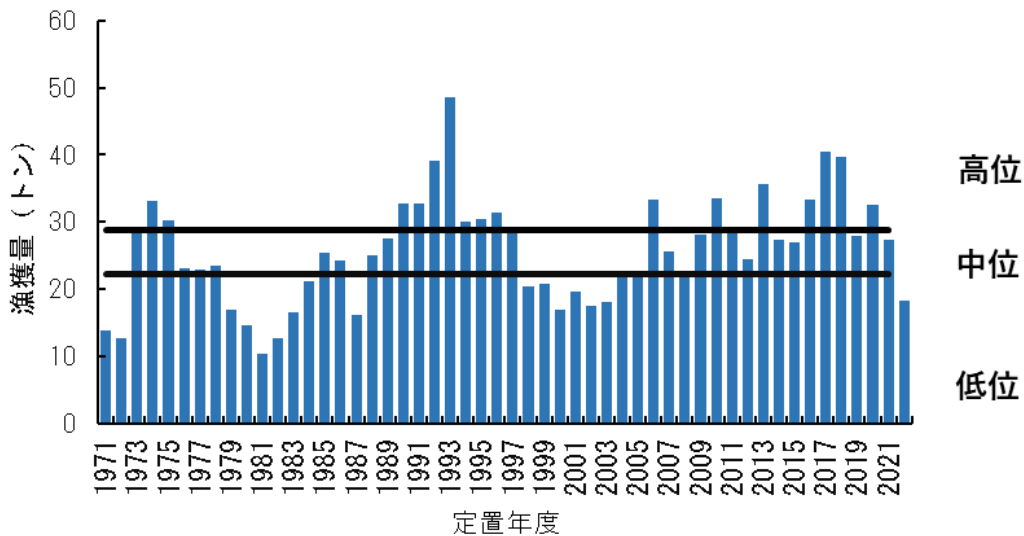


図1 三重県の大型定置網における イシダイ漁獲量の推移
(三重県ブリ定置漁獲統計 1971 年～)

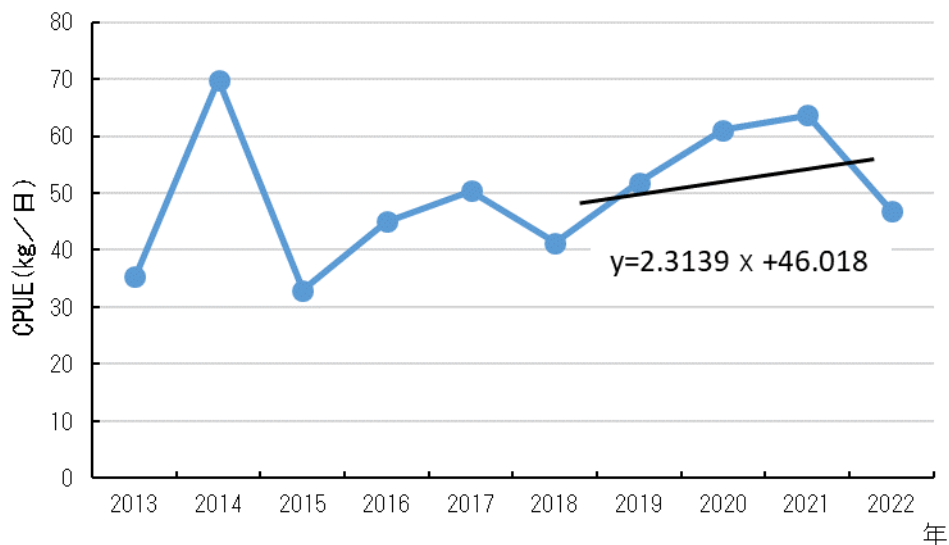


図2 南伊勢町方座浦地区における大型定置網のCPUEの推移

4. 資源評価の根拠

長期間イシダイの漁獲量データがある三重県ブリ定置漁獲統計を使用し、1971～2021 定置年度までの漁獲量の第一 3 分位点 (22.3 トン) を低位と中位、第二 3 分位点 (28.9 トン) を中位と高位を区分する基準値として判断した。2022 年の漁獲量は 18.3 トンであることから資源水準は「低位」と判断された (図 1)。また、漁獲量の多い南伊勢町方座浦地区の大型定置網における 2018～2022 年の 5 ヶ年の CPUE の回帰直線の傾きは 2.3 で、中間年 (2020 年) の推計値 53.0 で割ると年変動率は 4.3% となることから資源動向は「横ばい」と判断した (図 2)。

5. その他関連情報

三重外湾漁業協同組合におけるイシダイの漁獲量は概ね 2022 年までは 40～50 トンで推移していて、比較的安定していたが、2023 年は 30 トンを下回った。

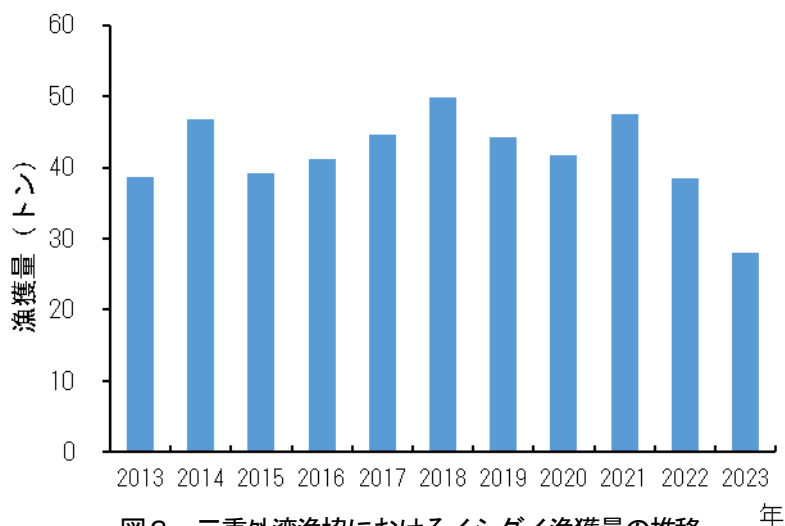


図3 三重外湾漁協におけるイシダイ漁獲量の推移